

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「愚かさを知る」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

先日、韓国・天安の独立記念館を訪ねてきました。1919年2月8日、東京・猿楽町の在日本韓国YMCAで在日朝鮮人留学生たちによる「独立宣言」が採択され、そのことが導火線となり、同年3月1日の韓国ソウルでの「独立宣言」、各地での「大日本帝国」による植民地支配からの独立運動へと発展していきました。韓国では「万歳運動」「独立運動」ですが、当時の日本では、「暴動」「騒擾」として伝えられていました。日本では教えられない「日帝」時代の様々な展示や資料を目の当たりにして、心が締め付けられました。「日帝支配」の歴史を無視しての日韓関係はあり得ないと思いますし、歴史教育・認識の差が、現在の日韓関係の様々な面で温度差を生じさせているのではないのでしょうか。天安のある聖公会の教会では、反日の勢いが増す中でも、日本人クリスチャンと一緒に礼拝を守り、その人たちが日本へ帰国する際は、仁川の港まで危険が及ばないように同行して見送ってくださったということです。同じ地域の仲間が独立運動に関わったというだけで連行され、拷問を受け、殺されるという惨状の中での話です。100年前の昔話としてではなく、現在まで続く正義・人権・命の尊厳の課題として認識したいと思います。

実際に現場を訪ねて、出会いと学びを重ねることがとても大切なのだと改めて思われます。武力や経済によって支配することの愚かさ、そこには憎しみや悲しみしか生まれないことを、歴史を通して私たちは常に学んでいかなければならないと思いました。また、人を生かす為に抵抗し、人を生かす為に危険を顧みないキリスト者・宗教者がいつの時代も存在することに励まされます。歴史に生かされている私たちは、現代の状況の中でどのような働きに召されているのでしょうか。

「わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えてい

## □会議・プログラム等予定

(11月25日以降)

### 11月

- 30日(木) 臨時主教会〔仙台〕
- 30日(木) 東北教区主教助手・就任式〔仙台〕

### 12月

- 1日(金) ~ 2日(土) 各教区財政担当  
者連絡協議会〔バルナバ  
ホール〕
- 4日(月) 憲法法規委員会〔管区事務  
所〕
- 4日(月) 青年委員会〔管区事務所〕
- 5日(火) 常議員会〔管区事務所〕
- 6日(水) 女性の聖職に関する特別委  
員会〔管区事務所〕
- 7日(木) 文書保管委員会〔管区事務  
所〕
- 7日(木) ~ 8日(金) 各教区人権問題  
担当者会〔ナザレ・狭山〕
- 8日(金) ウィリアムズ主教記念基金  
運営委員会〔立教〕
- 11日(月) ~ 12日(火) 各教区宣教担当  
者の集い〔京都〕
- 14日(木) 正義と平和・原発問題プロ  
ジェクト〔管区事務所〕

### 1月

- 8日(月) ~ 11日(木) 各教区青年担  
当者の集い〔韓国・済州〕
- 19日(金) 人権問題担当者会議〔管区  
事務所〕
- 22日(月) ウィリアムズ主教記念基金  
基金委員会〔立教〕
- 25日(木) 主事会議〔管区事務所〕

### <関係諸団体会議・他>

- 11月25日(土) BSA90周年記念礼拝〔聖  
アンデレ教会〕
- 29日(水) マイノリティ宣教センター  
理事会〔早稲田〕
- 29日(水) 同宗連第4連絡会研修会  
〔バルナバホール〕
- 12月6日(水) NCC 役員会〔早稲田〕
- 9日(土) 史談会〔管区事務所〕
- 12日(火) 日本キリスト教連合会常  
任委員会〔管区事務所〕

### 2018年

- 1月17日(水) NCC 役員会〔早稲田〕  
(次頁へ続く)

ます。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。」(1コリ1:23-24)



(前頁より)

26日(金) カルト問題キリスト教連絡会〔管区事務所〕

31日(水) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕

31日(水) 日本宗教連盟幹事会・理事会〔増上寺〕

☆ 12月25日(月)は降誕日礼拝のため管区事務所業務は休業です。

📺 管区事務所冬期休業 12月29日(金)～1月5日(金) 管区事務所業務は休業です。よろしく願います。

□主事会議

第62(定期)総会期第8回 2017年11月12日(火)

< 主な報告・協議 >

- 1. 海外出張承認について、下記の通り承認した。
  - \* 10/30-11/1 韓国/ソウル 東アジアIALC 地域ミーティング 司祭 市原信太郎
  - \* 11/6-9 韓国/大田・天安 日韓協働合同会議 主教 磯晴久、司祭 李贊熙、司祭 影山博美、池住圭、呉光現、黒澤圭子、谷川誠
- 2. 2018年度「大斎克己献金国内伝道プロジェクト」奉獻先について、選定の内定を行ない、常議員会に決定をはかることとした。
- 3. 2017年度収支予想および2018年度収支予想について、年金勘定に関しては年金事務の自主運営に伴う表記変更の補正を行ない、経常勘定に関しては補正の必要はないと判断した。
- 4. 管区事務所規定一部変更について、特別有給休暇に関する追加規定(介護休暇)を定める旨を承認した。  
次回および次々回会議：2018年1月25日(木)、3月2日(木)

□各教区

東京

- ・ 主教アンデレ大畑喜道師父の休職ならびにゼルバベル広田勝一管理主教委嘱に伴い、第129(定期)教区会の日程を延期する。12月16日(土)9時～17時 聖アンデレ主教座聖堂・聖アンデレホールにて開催する。

横浜

- ・ 11月4日(土)の主教選挙では当選者を得られなかった。
- ・ 聖職按手式 12月16日(降臨節第2土曜日)10時半 横浜教区横浜聖アンデレ主教座聖堂 司式：横浜教区主教 ローレンス三鍋 裕 説教：司祭 バルナバ田澤利之 司祭按手：志願者 執事 テモテ姜 炯俊

中部

- ・ 聖職按手式 12月16日(降臨節第2主日 後土曜日)13時半 長野聖救主教会 司式：中部教区主教 ペテロ洪澤一郎 説教：司祭 エリエゼル中尾志朗 司祭按手：志願者 執事 フランシス江夏一彰

公 示

救主降生 2017年11月6日  
日本聖公首座主教  
主教 ナタナエル植松 誠 ㊦

日本聖公会東京教区、教区主教 アンデレ大畑喜道 師父の休職にともない、下記の通り管理主教を委嘱いたします。

記

日本聖公会法規第9条第3項の定めにより、日本聖公会北関東教区主教 ゼルバベル広田勝一師父に、日本聖公会東京教区の管理主教を委嘱する。

任期は、2017年11月6日から2018年1月31日までとする。

以上

《人事》

京都

司祭 ヨハネ吉田雅人	2017年11月30日付	ウイリアムス神学館館長の任を解く。
	2017年11月30日付	神戸教区からの出向を終了する。
司祭 ヨハネ黒田 裕	2017年11月30日付	京都聖ステパノ教会牧師の任を解く。
	2017年12月1日付	ウイリアムス神学館館長に任命する。
司祭 クレメント大岡 創	2017年12月1日付	京都聖ステパノ教会の管理を委嘱する。

<信徒奉事者認可> 2017年12月1日付  
 (富山聖マリア教会) ピリポ廣瀬康夫(任期1年)

神戸

司祭 ヨハネ吉田雅人	2017年11月29日付	京都教区出向の任を解く。
	2017年11月30日付	東北教区への移籍とする。



# 聖公会手帳2018



大型判(A5判・本文432ページ)
ポケット判

(写真はイメージです)

2018年度教会暦  
日課表を完全収録

ポケット判の紙質を  
軽量化、携帯するの  
に便利になりました

日本聖公会  
管区事務所による  
責任編集

全国の聖公会の  
教会・伝道所、関  
係施設情報も  
充実しています

大型判 2,200円(税込) / ポケット判 1,200円(税込)

お求めは聖公書店(☎04-2900-2771)または、お近くの書店まで

お早めにご予約を!

日本聖公会管区事務所  
2017年10月 

# CCEA 主教会に参加して

—いま、日本聖公会がなすべきことは—

横浜教区 主教 ローレンス 三鍋 裕

10月11日から16日まで、ミャンマーのヤンゴンで東アジアの聖公会の主教会が行なわれ参加しました。この集まりは東アジアの諸教会が自律管区として成立するまで相互交流のために保たれてきました。多くの管区は過去数十年の間に自律管区になりましたが、今もこの交流は続いています。ホンコンは英国領でしたし、フィリピンはアメリカ聖公会の一部でした。その意味では日本聖公会は管区としての歴史は他より古く、現在はオーストラリアと台湾と同じく準会員として参加しています。この3教会とフィリピン独立教会は主教が各1人参加しますが、大韓聖公会、フィリピン聖公会、ホンコン聖公会、ミャンマー聖公会、東南アジア聖公会は各教区単位で出席します。今回は28人の主教と各管区の常任委員、それにお連れ合いたちが参加しました。総勢50人余り、日本聖公会からは京都教区の小林聡司祭も参加されました。毎年開かれます。

普段は孤独な主教たち?の交わりと学びが主で、何かを決めるという会議ではありませんが、アジアの聖公会は少数派としてイスラムや仏教との緊張と融和の中で働いていますから、お互いの学びと分かち合いは大切な目的です。状況はそれぞれ違います。アメリカや欧州の教会がそれぞれの地域に住んでいる人々の実情に配慮しながらその務めを果たそうとしているように、アジアの諸教会もそれぞれです。シンガポール教区は一教区といってもネパールまでの9か国を含んでいますから、色々な状況に配慮が欠かせません。例えば性的少数者にかかわる事柄でも、一つだけが正しいとはなかなか言えないようです。

各教会の状況報告と、四つの発題講演とそれ

に続くグループ討議がありました。宗教過激主義に対する教会の姿勢、地球環境特に温暖化の問題、平和と和解。それにキリストの使徒としての務め、これは何かと思いましたが実際の内容は献金のお話でした。

日本に対する期待と厳しさも感じました。資源リサイクルの観点から、日本のごみの分別収集がシンガポールの専門家から紹介されていました。原発に関しては、日本のような高度な技術を持って事故は起きるし、核燃料廃棄物の問題も未解決なのかというのが皆さんの感想らしい。

平和と和解に関しては主教たちは勉強しておられるのでしょうか、従軍慰安婦の問題や靖国問題はどうなっているのかという質問が出ました。小さな教会ではあるが一生懸命声を上げている、と説明して理解はしてもらいましたが、アジアでは戦争はまだ過去の問題ではないようです。今はミャンマーといいますが以前のビルマ、つまりはビルマ鉄道建設の現場ですから良い記憶であるはずがありません。それを乗り越えて配慮していただきますが、過去が無というわけではありません。日本聖公会の平和と和解への働きが期待されているのを感じざるを得ません。アジアの同労者と共に果たすべき務めでしょう。

最後にミャンマーの感想。全体として豊かになりつつあるアジアにあって、ミャンマーはまだ貧しいお国ようです。民族問題などでとかく話題にもなるお国ですが、アジアらしい市民のエネルギーも感じます。日が暮れると本当に多くの屋台が出ます。貧しいけれども、その中にも楽しそうに団らんの時を過ごす姿を見ます。こどもたちの笑顔もあります。平安を祈りたいと思います。

## 2017年 在日韓国出身教役者の集い

＜ヤーウェ・イルエ 主は備えてくださる＞

九州教区 司祭 李 相寅<sup>イ サンイン</sup>

2017年、在日韓国出身教役者の集いは、個人や仕事の事情で出席できなかった聖職者を除き、計11人が横浜に集まって、10月2日～4日、2泊3日間、行なわれました。横浜は個人的に初めて訪ねる地域となりましたが、私が所属している九州教区の武藤主教が<sup>カン ヒョンジョン</sup>かつて司祭として勤務した地域であり、現在は姜 炯 俊 執事が勤務する地域で、特に不慣れな感じはありませんでした。

宿泊場所を横浜中華街にあるホテルに決め、その場所から近い横浜山手聖公会での開会礼拝で、今回の集いは始まりました。三鍋主教の説教による礼拝でした。

内容は、先輩聖職者が私たち後輩聖職者に語りかけてくださるものでした。「今は皆さんの仕事に神様が一緒におられるかどうか疑問を持つと思いますが、今の瞬間を忠実に、真面目にすれば、いつかは、神様がいつも一緒におられたことが分かるようになる」という話でした。主教の説教は日本と韓国という民族を超え、先輩聖職者の経験の中から告白され、後輩に向けたアドバイスのように感じられました。

礼拝を終えて夕食を姜 炯俊執事の紹介と案内で、中国料理大会で大賞を受賞した料理士がいる食堂でいただくことになりました。本当に美味しかったし、楽しい食事ができました。

2日目は東京の川崎にある在日大韓基督教会川崎教会を訪問しました。そこの担任牧師である金 健<sup>キム ブン</sup>牧師からご本人のことと教会の説明を受けました。聞いているうちに韓国人として重要な責任感を同時に感じるようになりました。

その後、その教会と関係を結んでいる、桜本保育園、ふれあい館を訪

問しました。私たちが訪問した日、折よくそこで毎月一度行なわれる在日韓国人の誕生日を祝う行事がありました。そしてその月の誕生者である聖公会の李 浩平<sup>イ ホビョン</sup>司祭、金 善姫<sup>キム ソンヒ</sup>司祭も一緒に主人公になってお祝いを受けるようになりました。お互いに前もって了解を求めることができずに、急に誕生日のお祝いの主人公になって参加しましたが、何の抵抗感なく、その人たちとすぐに溶け込み、韓国人としての自負心も感じる瞬間でした。

その後、船でみなとみらいまで移動し、横浜市内を見物し、船を降り自由にくつろいだ楽しい時間を過ごしました。

最終日は特別なプログラムはなく、閉会礼拝ですべての日程を終えました。礼拝は聖アンデレ主教座聖堂であり、韓国語で行ないました。礼拝の聖歌も韓国語の聖歌を用いました。在日韓国出身教役者たちが皆自然に和音を入れたハーモニーを聞きながら手前みそながら本当に歌が上手だと感じました。日本で韓国のK-popが流行するように、日本聖公会内に韓国人聖職者たちの歌う韓国の聖歌が多く聞こえてほしいという希望も持ちました。



閉会礼拝を最後に、全ての日程を終え、それぞれの帰途につきました。私を含めた在日韓国出身教役者はおそらく今我々が日本で何をしているのか、何ができるのか明確に目で確認できず、手につかないと思います。しかし、三鍋主教

のお話のように、アブラハムが後に振り返りながら、“自分のすべての経験に神が共におられた、主は備えてくださった”ということを感じながら、叫んだ“ヤーウェ・イルエ”が、未来、私と在日韓国出身教役者にも起きることを祈ります。

## 世界の聖公会の動向

- ・ 米国聖公会とメソジスト教会のフルコミュニティ
- ・ アジア・キリスト教協議会 (CCA) 60周年記念式典の意義
- ・ 西インド諸島管区首座主教がハリケーンからの復興について語る

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

### ○米国聖公会とメソジスト教会のフル・コミュニティ

米国聖公会と米国メソジスト教会の間の公式対話を担当する機関は、フル・コミュニティのための提案文書の草案を採択した。

聖公会・メソジスト対話委員会 (The Episcopal Church-United Methodist Dialogue Committee) は、この提案が「宣教と神の愛を証する場における教会間のパートナーシップをより密接に導き、ひいてはクリスチャン同士の分断を和らげ、あらゆる人の幸福のために共に働くための努力」であると述べた。

2つの教会はどちらも米国に拠点を置いているが、世界中の多くの国々に影響力を持っている。彼らのなした功績に対し、次のようにレポートされている。

「メソジスト-聖公会の対話の中で、米国の教会分断がしばしば人種的、社会経済的な分裂状況を反映していることが注目されてきた。対話委員会は、アングリカンとメソジストの対話の中で、人種差別主義 (レイシズム) について教会を分断化させる問題として扱わなければならないと断言している。

我々に共通する祖先であるジョン・ウェスレーとチャールズ・ウェスレーに加えて、フィラデルフィアの聖ジョージ・メソジスト監督教会 (St George's Methodist Episcopal Church) のメンバーであるリチャード・アレンとアブサロム・ジョーンズも共通の祖先である。人種排他的な政策に対抗して、リチャード・アレンは、アフリカン・メソジスト監督教会 (The African Methodist Episcopal Church) を創設し、アブサロム・ジョーンズは、米国聖公会で接手された最初のアフリカ系アメリカ人の聖職者になった。」

### ○アジア・キリスト教協議会 (CCA) 60周年記念式典の意義

ミャンマーのヤンゴンで開催された世界で最も古い地域的なエキュメニカル組織である「アジア・キリスト教協議会 (The Christian Conference of Asia)」の60周年式典に、6,000人以上が参加した。

CCAは、複数の聖公会管区も含まれているアジア・オセアニア地域で、多数の教派・教会を取り纏めている。CCAの事務総長であるマシュー・ジョージ・チュナカラ博士は、次のとおりエキュメニカル運動の重要性を強調した。

「世界で最初の地域的なエキュメニカル組織として、1957年に創設されたCCAが60周年を迎えることを、神に感謝しています。60周年の節目を祝うため1週間の会議に600名、感謝をささげる礼拝に6,000名もの参加者を迎えたことは、当組織にとってまさに記念碑的な出来事となりました。人間が60歳に達すると一つのライフサイクルを完了するように、「60」という数字はアジアの多くの文化で一つのサイクルを終え、新たなサイクルを開始することを意味します。これは、CCAがライフサイクルの新しい段階に入っていくことによって、アジアにおける真実と光に対

する預言的証人としての私たちの任務と旅の継続を想起させます。」

世界教会協議会 (The World Council of Churches) の総主事であるオラフ・フィクセ・トヴェイト博士は、この記念日が「CCAと世界全体のエキュメニカル運動の双方にとって、アジアにおける共通のエキュメニカルなコミットメントを祝うための機会である」と語った。

彼は、CCAのメンバーに対し「アジアでの神のミッションに参加することを通じて、より広い世界の利益のために働いている」とたたえた。

トヴェイト博士は、エキュメニカル運動が、さまざまなキリスト教派の間にある距離を橋渡しする能力を持っていると語った。「人間を分類する力はたくさんありますが、キリスト教徒の間にも様々な隔てが存在しています。これまで重大な齟齬や、緊張や、分裂や、紛争と戦争の時代を経験してきました。我々の間に横たわる多くの権力と利益が、クリスチャンを孤立させ、交わりの絆というクリスチャン同士の関係の質を傷つけています。このような理由により、我々はエキュメニズムとエキュメニカル運動の目標を達成するために、協力し合う必要があるのです。」

### ○西インド諸島管区の首座主教がハリケーンからの復興について語る

西インド諸島管区の首座主教であるジョン・ホルダー主教は、2週間の間に相次いでカリブ海諸島へ襲来した2つのカテゴリー5のハリケーンによって引き起こされた被害について語った。

ハリケーン・イルマとマリアは島々に「巨大な」被害をもたらし、地域で発生する熱帯低気圧の中でも最大級の威力となった。ジョン主教は、管区にある2つの教区が特に被害を受けたと説明し、「北東カリブ海とアルーバ教区で、2つの島が荒廃しきった状況にあります」「バーブーダ島は1,200人の小さな島ですが、すべての島民を移動させアンティグアに連れていかなければなりませんでした。ドミニカでは建物の95%が破壊されたか、もしくは重大な損傷を受けました。ドミニカを復興させるためには何十億ドルもかかるでしょう。バハマとタークスおよびカイコス諸島教

区では、島々も深刻な被害を受けていましたので、私たちはカリブ海で多くの被害を受け、この管区の中で多くの被害があったこととなります。」

「聖公会の組織は、カリブ海で最も優れたネットワークの1つであり、私たちはそのネットワークを利用して、影響を受けた人々に手伝ってもらい、彼らを支援することができるようになるでしょう」とジョン主教は語った。「状況に対応するために、私たちは管区をあげて全てのことに取り組むつもりです。ただし外部からも、USPG、アングリカン・アライアンス、トリニティ・ウォールストリートなど多くの人びとによって支援されています。」

ジョン主教はさらに次のように述べた。「あなたがたとえハリケーンに慣れていても、一年の間に『全て』を失っていたとしたら、おそらく多くの点で意気をくじき、非常に衰弱させることになるでしょう。しかし、カリブ諸国の人々には回復力に満ちた強い精神があるので、復興を遂げることができるでしょう。」

### 【聖公会手帳2018】

—記載内容の訂正とお詫び—

「聖公会手帳2018」の記載内容に誤りがありました。お詫びして、以下の箇所について訂正いたします。

2017年11月 日本聖公会管区事務所

#### ■記載内容の訂正

P. 337 (学校一覧)

(学) 松陰女子学院 (誤) 理事長 川崎紘平  
(正) 理事長 中村 豊

#### ■電話番号の修正 (教役者索引)

P. 362 奥 康功司祭 (誤) 072-275-6101  
(正) 072-249-5670  
P. 375 中村 豊主教 (誤) 078-777-0855  
(正) 078-777-0885  
P. 380 文屋善明司祭 (誤) 0940-72-4613  
(正) 0940-55-3156

#### ■電話番号の追加 (教役者索引)

P. 370 鈴木裕二司祭 03-4296-0868

## 教区時報再録

## 「信如岩」

★ 北関東教区時報

2017年7月 第325号 “若枝” 欄

主教 ゼルバベル 広田勝一

過日、水戸の信徒の方から、ご自身の祖父である元田作之進主教の書を寄贈いただいた。表装された立派な扁額で「信如岩」とある。日本聖公会東京教区監督印もあるので、監督（主教）接手後の作である。揮毫に巧みで良山と号した。

東京教区は、南東京地方部（ヘーズレット監督）と北東京地方部（マキム監督）から区域的に転入した23の教会、3,929人の信徒数を有する教区として1923年に成立した。その初代主教が、同年5月に選出された、当時立教大学長であった元田作之進師であった。

日本人初の主教接手式は10月に予定されていた。しかし9月に関東大震災が発生、甚大な被害を受けた。大式典の会場候補であった築地の聖三一大聖堂は廃墟となり、マキム主教は本郷聖テモテ教会を式場として定め、12月7日主教接手式が挙行された。苦境にありながらも復興を目指す大きな希望となった。

一年後の1924年12月の教区会で元田主教は以下のように演説する。「二教区（東京・大阪）七地方部の中において最も多数の現在受聖餐者を有するものは我東京教区であるということは動かされない事実である。

面積よりいえば二教区七地方部の中にて東京が最も狭く、教会の建物においても今日の東京教区は最も貧弱であり、教役者の数においては第五位であるが、信者の数においては第一位である、教区を組成するに最も重要なるものは即ち信者にして教会堂は亡び、家財は焼かれても、信者の信仰にして動かされずは教区の生命は持続すべく、これぞ我等が震災当時よりして、祈りし又励み

もしたる所にして、今日教区が着々として以前の健康体に復帰しつつあるは之がためである、東京教区が未だ震災前の情態までには回復し得ざるも漸次健全に復興しつつあることを思うとき、信者各自の信仰の持続がその最大原因なりしことを忘れてはならないのである。」

元田主教は1928年4月急逝された。66歳、主教として4年4ヵ月であった。この在位期間中に「信如岩」が書かれた。上述の演説の中にもこの言葉の意味を探ることができる。まさに「信仰は岩の如し」。

聖書にも「岩」に関連する記述は多い。例えば、出エジプト記「見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる」（17:6）。岩は、自然の意味にも形容的、象徴的にも用いられる。「主はわたしの岩」（詩18:3）、「主のほかに神はない。神のほかに我らの岩はない」（18:32）、「主は命の神。わたしの岩をたたえよ」（18:47）、「神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは決して動揺しない」（詩62:3）など詩編に多く見られる。

マタイ福音書には、「わたしも言うておく。あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てて。陰府の力もこれに対抗できない。」（16:18）とある。岩の上に建てられた「信徒の集まり=教会」の信仰によって教区が発展していくという希望を三文字に秘めた可能性もあるであろう。

イエスは、「それは、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。」（ルカ6:48）と語る。

信仰の対象は神である。その神は、まさに岩のように「確固たるもの、力、保護する者」である。また「主はわが岩、わが贖い主」（詩19:15）である。今90数年前の書を眺めつつ、今をしっかりと生き抜くように促される。

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.orgprovince/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。